(日刊) 明治四十年十一月三日第三種郵便物認可　明治四十一年一月廿九日　京城新報　(水曜日)　第六十五號　(一)

京城新報

●新聞料 ▲一部二錢▲一ヶ月金廿五錢●三ヶ月前金壹圓▲六ヶ月前金貳圓▲前段一月金拾參錢
●廣告料 ▲五號活字十九字詰一行一回金三十錢▲四號活字十四字詰一行金四十五錢
●陰曆 十二月廿六日
發行兼編輯 印刷人 山下 京城西署西小門通
發行所 京城新報社 電話六六三

統監政治

(大阪朝日所載)

統監政治が果して有終の美を濟し得る性質を帶ぶるかどうかは半ば生命と精神を遺失せる韓國人が國民的品性を復活し得る餘地があるかどうかに歸着する、伊藤公爵は素より韓人啓發感化し得べき民として韓人を待遇する道に我が在韓臣民に優り我が邦人の福利を蹂躙するまでも韓人の利益を尊重するを以て施政の方針と確定し、日本人官吏に訓令するに一意韓國政府並に韓人の利益に留念し決して日本なる觀念を挾むを許さゞるを以てし、恩惠と懷柔を以て能く滅亡に瀕せる國家を永久に互りて整理改善すべしとなす。

此の熱烈なる自信の爲に忍び難き無禮も失態も總て覺醒し得るものとして洒々たるところ頗る大政治家の面目を窺はしむるれども、是れ甚だ悠々閑々たる政策にして試みに統監府設置後に成りし正味を舉ぐれば先づ何者かある。生命財產の保護は第一外國人第二韓人に對し非常の恩惠を敷けど上は太皇帝より下庶民に至る迄伊藤統監の德を謳歌するもの終に幾何ぞ。

かゝる宏量大度の政策は機を見る至敏の韓國官僚をして著るしく我が官吏を蔑視せしめ、指導の實行者として頃日略任命を了れる日本人官吏に在りても我より豫定の官等人員は半ば韓國政府の異議に因りて抹殺せられ、多年韓國に在りて國事に奔走せる志士が往々主事(判任)の微職に就きて碌々たる韓吏より主事と呼び捨てらるゝが如きはいかにも腑甲斐なき沙汰にして、殊に妖魔の源泉たる宮內府に採用せられたるもの小宮內官以下僅に二十四名、而して李允用の一族は七十名に垂んとす、是の狀態で以て財政其の他諸般の改善指導を行ひ得べしとするか、憲章の美は備はれり日本人官吏も採用はせられたり、唯餘りに寬宏忍容なる統監政治を如何せん、各部大臣は能く部務を總理し法規を體して決して官制を紊さゞるを奈何せん、次官に甘んじたる英才は各部大臣署理の職ありて皇帝に咫尺する事さへ叶はぬをいかにせん。暴徒の爲に失はれたる我殖民の生命と財產は頗る多く將來とても必ず少からざるべし、然れども其責任者は韓國政府たると統監府たるとを問はず賠償の方法は毫も講せられざるなり、却て深く内地に入りて業務を經營せるは僭事なりとして譴責せらるゝ位のものたるなり、さあれ京釜鐵道買收用地の下付金は我邦人が權利を有するものをも元の所有者を搜索して總て韓人に下渡されたる事もありき、凡そ伊藤統監の方針としては先づ韓國の福利と謂る間は在韓日本人はあらゆる利益と權利を犧牲に供すべしと定めしぞ無慘なる。

對韓經營の要務は殖民にあらず、移住民の年毎に增加するは寧ろ統監が韓國の利益を阻害すと信ずる所、虎の子を生捕りし思ひにかしづきまつる英親王殿下が長白山頭に伊藤公が銅像を建て遣はさるまでは幾ら箭拔せる良官吏の渡り來りても財政の整理、國政の改善共に捗々しからざらん、之を要するに餘りに公明正大に過ぐる伊藤公が統監としての就任は今日の結果に見て確に五年以上早かりしを認めずんばあらず(十九日京城發)

東宮御所御構造(續)

東三の間を經て二の間に入る高雅なる石目織の綸壁を劃して正面の大壁畫は狩裝束の鎌倉武士三騎、轡を聯べて林下を過ぐ是れぞ故淺井畫伯最後の大作にしてやがては此儘西陣の織物に織出され畫に代りて此御室を飾るべしとぞ一の間を出づれば即ち皇太子殿下の御學問所にして御書棚、御用卓、御裝飾棚の類何れも最良のマホガニーにて作られ精緻なる彫刻者技巧の極致なり殿下の凭らせ給ふべき御椅子は嫩綠の地に濃き紅の花束を織出せる貴き織物にて張られ金泥の綠菊御紋章進み近づくだに褻瀆恐れあり漏れ承る所によれば價七千餘圓なりとか申す此御卓を前にして此御椅子に倚らせられ靜かに博士等の進講を聽き給ふ御有樣など伏して惟みるも尊しや三の間より此に至る天井は皆佛國名匠の油畫、壁に連る柱檻は石膏に泥金を施せるもの五彩直ちに妙華を開き金鏞即ち是れ窓戶なり其善盡し美盡せる結構は到底筆舌の勞觸し得べき所にあらず

御學問所と奧廊下一重を隔てゝ饗宴所あり佛國アンリー二世時代の樣式に倣へるなりとか石膏金泥の晴れやかなる色彩に慣れたる眼は是に至つて百花競ひ咲く春の園より紅葉淸く彩れる秋の林に入る想ひあり用材はショージにして木地鮮やかに室を圍める壁には畸亭氏の下繪に成れる花鳥の七寶數十個、何れも楕圓形なるを嵌したれば四圍微紅の木色これに襯めて一層の快感あり正面なる食器飾棚、壁には一尺の片布も數百金を價すといふなる佛國のゴブランの幅三丈三尺餘、高さ二丈餘なるを張り天井の油繪は總て食膳に緣ある飛鳥水禽を描きて百花亂れ咲く間に翩翔游泳せしめ而して彼の七寶の靈禽金毛を上下互に相和鳴せしめつゝ扨て大食卓を据ゑて六十脚の椅子を按排し一噸餘の重量ある金鍍青銅の大燭器三箇を懸けたり

饗宴所の次は配膳室にて最も簡淨を尙び蒸汽濕皿器、地下室の厨房より御料理を運ぶ昇降器皆嶄新の工風に成れり

次を小食堂とす御常用の食堂として手狹なれども裝飾設備至らざる隈もなし腰廊及び窓下の如き饗宴所と同樣ショージを用ひ壁は建築模樣食器裝飾棚煙突前飾周圍の食器臺等は濃綠色の大理石而して大なる七寶の額面二個をかけたり室の一隅に圓室あり外面は圓形の塔となる御食後珈琲を召させらるべき處といふ圓室の外扉を排すれば御學問所に沿へる彼の奧廊下に通ずる廻廊あり白磚の床、花崗石の欄干、階下室の御內庭より聳み上げたる石の露臺にして雲の梯とも申すべきか御食後眺望のいと佳きを愛で給ひつゝ御逍遙遊ばさるべき處とは拜し率る豫備室を經て喫煙室に入れば壁天井とも全部石膏にて紅黃綠紫の色を一松樣に染め腰壁には更に綠白模樣の陶器を疊みたれば洵に七寶の淨土に遊べるかと疑はれて丹碧の姸麗見る目も綾なり此室は總て土耳古の樣式に倣へるなりとぞ天井の四隅に空氣交換機ありて一方に立籠る煙を吸取れば他方よりは淸き溫氣を注ぎ來る其用意の周到なる素より爽の思ふ所に非ざりけり

弓杖の廊下を經、豫備室を過ぎて御二客室あり恰も公式御玄關の與上に當りて結構莊麗を極め近に次なる廣間に出づれば始めて知る此ぞ彼の大階段を挿んで大廣間と相對することを、裝飾の美は大廣間と同じく拜觀者をして唯だ恍然自失せしむ

火災保險率(上)

我が火災保險界の混沌たるや既に久し然れども社會の益進步し經濟の發達著るしきに伴ひ世人亦火災保險の必要を感ずる事大なるに至り日露戰役中の如きは他の事業の振はざる者ありしに反して斯業は却て長足の發達を見たり抑も火災保險は一種の社會政策的事業にして又兼て補助的商業機關として必要なる事論を竢たず其の經營者たる者は宜しく單に自己の營利事業として考ふるのみならず兼て社會公共的事業として常に注意を怠る可からず是れ現今進步せる社會にのみ發達し得可き文明社會的營業(銀行業、倉庫業、保險業、運輸業、交通業、新聞業の如し)經營者の當然守る可き義務たらずんばあらず然るに吾人の見る所を以てすれば火災保險業者にして此當然の義務を守りたる者一人として之なきのみならず此の義務を自覺せりと認め得可き者すら一人も無し是れ吾人の大に遺憾とする所なり素より他の文明社會的營業者に對しても吾人は同樣の遺憾を抱く者なれども火災保險業者に於て特に其缺陷甚だしきを見るを以て一言當業者諸氏の反省を促さんとす

目下火災保險界に於て其死命をも制す可き程の重大問題は保險率なりとす曾て火災保險業の勃興せんとする徵候を呈するや大會社として稍信頼するに足る可きもの丶外に幾多の小會社簇起し各社競爭の結果爭ひて保險率を低下し心ある者をして却て保險契約の危險を感じて躊躇せしむる程に至りしが無謀の競爭は久しく續く能はざるは當然の理にて其の懷勘定より遂に協定の必要を感じ昨年五月に至りて五大社共通の協定保險率を制し違反者には相當の制裁を加ふる事とせり即ち從來の保險率は大約千分の一、五內外なりしを此の協定によりて五社一樣に最底千分の二、五なる可きを約せり元來保險率の協定は久しき以前よりの問題にて協定を遂ぐるに非ずんば到底斯業の維持發達を期す可からざるは必ずしも識者に非ずとも當業者の等しく認むる所なりしも如何にせん公德の心なく永遠の利を見る明なく唯目前の利を追ふて走る事恰も浮草の如き人達の集まりとて一度協定成るも直に敗れ甚だしきは昨の協定提案者は今の破壞者となる有樣にて混沌の狀目も當てられぬ次第なりしが昨年五月の協定は稍平衡を得たるが如く各會社も安心し又被保險者をしても却て稅率の引上を歡迎せしむる奇觀を呈し斯業の發達或は期す可しと思はれき然るに舊臘に於ける函館の大火は斯業に大打擊を與へ同業者をして周章狼狽せしめ全國五大會社は東京に會合して其の協定率を議し遂に最低率千分の五を約定し本年の一月一日より早速之を實行せり試みに之を昨年五月の協定率に比すれば二倍にして同年一月に比すれば四倍以上に上れり世人が突飛なる昂騰として之を迎ふる故なきに非ずと謂ふ可し

寄書

漢城衛生會に望む

ケー、アイ生

一夕客あり談偶々漢城衛生會の事に及ぶ其の語る處にして果して眞なりとせば委員會の意見なるもの甚だ迂遠の嫌たるを免れず余は素と一介の書生衛生上の智識なし然れども事苟も公共の利害に關す豈一言なかるべけんや委員諸君庶くば心を虛ふして余の言に聽かば幸甚

(一)委員會の意見に據れば城外に一大池を穿ち之に尿屎を投棄し其水分を漸次地中に浸染せしむるにありと之れ當初に於ては幾分効果あるべしと雖も元來全京城及其附近の地質たるや花崗岩層にして淺きは五六尺深きも三十五六尺に達すれば悉く堅盤なり然らざるも通例三四尺以下は悉く花崗岩に屬し其の堀穿面は粗雜の滲喰塗よりも堅牢なれば到底長く其の目的を達する能はず(二)尿屎運搬人の給料を一日三十錢乃至五十錢と豫定するも現時居留の日本人は給料の多寡に拘はらず之に從事するもの恐くは僅少なるべく又韓人は肩骨軟弱にして之れに慣るゝまでは使用に堪へず(此の事は昨秋實驗せられし處ならん)獨り支那人のみ能く不潔に堪ゆべきも方今在留支那勞働者のみにては人員不足なり何れにしても五十錢以下の賃金にては充分ならず(三)費用徵收の事に付ては未だ委員會の意見を聽かず然も之れ最も困難の問題なり目下日本居留地は人頭一ヶ月金二十錢宛なれども韓人は人頭五錢以上の徵收に堪へざるべく到底運搬費用を償ふに足らず宜しく他に財源を探究せざるべからず

試に余が卑見を述べんか(い)屎は之を熱氣乾燥となし固形若くは粉末肥料として成るべく大都會に接近せざる九州、四國、山陽及山陰地方に輸出し農家に販賣するにあり(韓國の農事進步迄)而して尿は火藥の原料たる硝石を製造すべし(ろ)運搬は東京附近新宿邊に於て用ゆる長形の桶にして蓋を付したるものを用ひ馱馬牛を以て肥料製造所に運搬すべし斯の如くすれば人夫をして運搬せしむるよりも費用を減じ且つ漢城全部に普及することを得べし(は)以上の方法は當初に於て固定の資本を要するも他年肥料の販路及硝石製造より得る利益を以て人民の負擔を減ずるのみならず遂には漢城市の一大財源となるに至るべし肥料及硝石製造所に要する敷地の撰定、假小屋の設計、附屬諸機關の設備に至りては能く單篇の盡す處にあらず委員諸君に於て若し卑見を採るの意あらば請ふ篇を重て之を詳說すべし終りに尙は一言す由來官府の施設事業往々舉らざるもの尠からず客秋防疫事業の如き記臆に新たなる處なり願くば官權萬能主義を棄て廣く公衆の意見を徵せられんことを希望の至りに堪へず

文苑

佳羅丹之幾

玉井南軒

新年風

立ちならぶ軒のみ旗のなびけるは歲立つ今朝の風や吹くらん

靜けくも治まるみ代のためし迚吹くとも見えぬ歲の初風

新年眺望

天地もみなあらたまる心地して年の朝の眺め鋒き

眺むれば古きものとてなかり見人の心やあらたまるらん

新年空

立ちかへる年の朝の大空や神代のまゝの景色なるらん

小說

絃のみだれ(五十八)

永井櫻園

山田も當惑さうな顔をして、

『折角、君が親切に作つて下れた金子を、殘らず拂つて置いて、今更斯麼事が言はれた義理ぢやないけれど、眞個當分の遣錢にもこまるが、殘金の仕拂にもこまつてるさ』

『殘金の支拂ひなんか心配する事があるものか、若喧しく言へば僕が事情を訴へて全快するまで待たせるさ。

それよりか必ず無くてならないのは、日々に費す君の小遣錢だ、僕も知つての通り方々にある負債を少しつゝ返して居るもんだから、眞個この間の十圓も時計を曲げて持つて來たやうな理だ、如何にかして都合して遣りたいけれどもどうも今の處都合が惡いのだ。

どうだい、君も可厭ではあらうが、斯う云ふ非常な場合なんだから、和田垣から少し補助して貰つては……』

聞くと同時に忌はしい辭でも聞くかのやう

『僕は頑固のやうなけれども、假令このまゝ死んで了つても和田垣の保護は受けない決心だ。小遣錢に不自由など云へば不自由だけれど藥を買う錢さへあれば、外に我慢すれば能るから、死んだと思つて不自由ぐらゐは辛抱するさ。』

と、淋しげな中にも凛乎とした調子で云ふ折から、入つて來たのは下女のたまで、

『唯今、郵便が來ましてございます。』

と、一通の封書を置いて、山田の容体を其となく眺めて去つた。

『松岡君、失敬だが讀んで見て下れ給へ、何處から來たらう。』

松岡は手に取上げて、一目見るより、

『展覽會の事務所からだ、一昨日審査する理だつたから、審査の結果でも知らして來たんだらう。』

云ひつゝ封を披いて讀み下すのであつた。

『山田、大變だ、大變だ審査の結果君の繪が銀牌受領だ。』

と、覺えず大きな聲をする。

『ねゝつ、本當に、銀牌なら宜いと云ふのだらう、病氣のために出品書の事なんか忘れて了つてたつた、賞狀ぐらゐは下れたかね。』

云ひつゝ、松岡の眺めつゝある書面に眼を注ぐ、

『眞個だよ、眞個銀牌受領だ。疑ふなら、それ此を見給へ……』

と、件の書面を擴げたまゝ見せる。山田は疑ひながらも其書面を見るに、眞個出品繪畫四百七十點中で、二等に位して、銀牌賞を得たに相違ないゆゑ、病軀を厭はず、俄破と刎起き、窶れた顔に笑を泛べ、

『不思議だね。何うしたのだらう、僕の畫に銀牌を下れるなんて、全で夢のやうな話だ、何かの間違ぢや無いだらうか、』

と、口頭では言つたが、心の中では窃に期待してたつたのである。

『それぢや君は、無落款で出したんだね、誰の出品だらうかと思つて見てれッたが那の繪なら間違でも何でも無い、實に場內の白眉であッた。僕は那繪が豈夫に君の出品であらうとは知らないから、君も曉星と記した繪は無いか知らと、一々注意して見たが、到頭見當らなかッたので失望して歸ッたのだ。まあ〳〵、病氣は不幸だッたがこの方は實に萬歲だ、これで病氣も全快するかも知らん、はゝゝゝ。』

と、愉快さうに笑ッた。

京城新報

保險に就き警告す

其名美にして其實危險なるは保險事業なり

余輩は過日の紙上に於て韓國に於ける保險事業の危險を說き事前に取締を要すとの主旨を以て當局及び江湖の注意を促したり、然るに今や京仁二三子發起の下に東洋火災保險なるもの既に當局の認可を得たりと稱し頃日某所に於て其披露會を開きたる由なるが余輩の所聞に依れば認可は未だ事實にあらざるも當局部內の手續が將に之を認可せんとする迄に進行し居れるは確に事實なるが如し、余輩は徒らに當局を非議し又濫りに他人の企業を呪咀するものにあらずと雖も事の苟も公共の利害に大なる干繫を有するものにありては操觚者の本分として傍觀默過する能はざるが故に玆に再び本論を草して聊か當局及江湖に警告する所あらんと欲す。

保險事業に於て最も緊要にして最も注意すべきは保險會社が保險契約人より徵集したる保險料金の運用方法にありとす保險料金は何時にても危險損害の發生したる場合に於て會社が被保險人に支拂ふべき保險金として豫め準備せらるゝを要す語を換へて示せば保險料金は現金若しくは現金と同一の效用ある方法に於て安全に保管せられざるべからず決して會社の勝手を以て濫りに他に流用するを許さゞるなり而らざれば萬一危險損害の發生したる場合に當り會社は保險金支拂の義務を盡す能はずして被保人は無意味に保險料を支出したるの結果に陷り之が爲に莫大の損失を蒙るの憂あればなり然れども會社にして保險金支拂の確實を慮るの餘り徒らに保險料金を金庫內に貯藏し置きて全く之を他に利用するなしとせんか會社は資本金に對する利子と經費を支辨するの途を得る能はずして會社の損益勘定は毎期缺損に終り遂には會社自身に破滅の不幸を免れざるべし此に於て問題は即ち保險料を最も安全に且最も有利に運用するの一點に歸着するなり故に保險經營者の最も苦心する所は保險料金の運用方法にあり又監督官廳が監督權を活用すべき眼目も保險料金の運用方法にあり世間往々保險料を只貰したりと考ふる保險業者あり函館大火災に保險金を支拂はざる幾多の小會社は即ち此類なり又保險料の運用を會社の勝手に放任して毫も監督の職責を盡さゞる監督官廳あり保險法發布前の我農商務省即ち是なり保險契約人が會社撰擇に注意を怠る可らざるは勿論なるべきも素人其途を知らざるに乘じ虎皮を被りて羊肉を鬻ぎ羊頭を揭げて狗肉を賣らんとするの奸商は豫じめ之を排除して公衆保護の途を立てざる可らず。(未完)

東京電報

▲御名代の西皇室訪問

目下獨逸國御留學中なる久邇宮邦彥王殿下に對し天皇陛下の御名代として西班牙國皇室御訪問の御沙汰あり同殿下には三月頃同國に向はせらるゝ筈なり

▲拓殖會社法案提出

政府は近々韓國拓殖會社法案を議會に提出し議會の同意を經たる上朝野の有力社會に依り創立委員を擧ぐる筈なり(以上二十八日)

各地電報

▲高橋侍從武官の安着 討伐隊慰問同視察の爲め差遣せられたる高橋侍從武官は陸路無事來着せられたり(廿八日忠州發)

▲賊魁を殪す 任實郡駐在巡查は廿五日前十一時同郡九皐面にて約七十の賊に會し戰鬪四十分間にして五十余歲の賊魁一名を殪し餘は潰走せしむ我一行無事(廿七日南原發)

雜報

●韓后の御吊電 皇后陛下御生母一條順子薨去遊ばされたることを聞し召され韓國皇后より皇后陛下に宛て御吊電を發せられたり

●參與官會議 昨日午前十一時參與官例會を官邸に開き俵、木內、石塚、佐竹の各參與官出席したり

●大臣會議 昨日午後一時より統監官邸に各大臣參集して政務に關する會議を開き曾根副統監も臨席したり

岡農商工部次官

農商工部次官岡喜七郎氏は仁川の某氏よりの請托を受け諸種の特許權を與ふるの內約を爲せりとの噂市中に專らなり、因に岡氏は曾て某縣書記官奉職中彼の有名なる敎科書事件に關し一時嫌疑を受け未決監に入りたることあるなりと云ふ

水道債の行惱み

過日來城せし中大路木浦理事官は木浦居留地水道の敷設に要する費用十五萬圓を第一銀行をして木浦民團に貸附せしめんと盡力せられたる由なるも如何なる理由なるか統監府及第一銀行京城總支店に於て容易に認可及承諾を爲さゞるにより目下行惱中なりと云ふ

一進會の解散

獨立協會の殘黨を中堅とし侍天敎徒及び褓負商等より成立したる一進會は昨夏の政變後少しく得意の如くなりしも成効報酬金分配及び會員の就官問題其他種々の事柄に付內訌百出し廉潔なる獨立協會派は袂を列ねて去り二十萬の褓負商派は李圭恒の命に仍て分離し侍天敎徒との關係亦曩日の如くならず從て政界及社會に於ける勢力全く失墜し殆んど存在の理由なきに到りたるを以て遠からず解散するなるべしと云ふ、因に在韓英米宣敎師は何れも一進會を統監府の御用黨の如く誤解し居るとのことなるが开は甚だ理由なきことなり

●統監府出張所の移轉 帝國ホテル內に設置しありたる統監府出張所は今回內幸町一丁目勸業銀行附近に移轉したり

●貴夫人の陪講 小宮宮內府次官夫人は韓皇后陛下に日語敎師として御進講申上る事は既報の如くにして皇后陛下御實兄に當らせらるゝ尹正燮夫人閔氏同井弘燮夫人韓氏皇后御叔母韓相騎夫人兪氏の三夫人は陛下御講習當日より陪講仰出され熱心御研究中なりと云ふ億ふに時運の趨勢に伴ひ上下一般に日語の必要に迫られたる結果貴族夫人に於ても日語研究の模範を社會民衆に示さるゝを以て今後有志者簇ひ起りて日語を講習するもの遂し益々多きを加へ彼我國民の意志疏通して親睦敦厚の域に進み國利民福を稗益すること少からざるべし

五十八銀行の取附

大阪市五十八銀行平野支店に於ては去る廿二日午後より二三預金の取附者と思しき者現はれ翌廿三日に至りては取附くる者益々多く到底支店資金のみにては拂出しに應ずる能はざるに至りしかば直ちに本店に援助を乞ひ同支店の預金三十萬圓中約七萬圓の拂出しを爲したり取附の原因は取締役楊井楢藏氏が同行を去りしため忌はしき風說の起りたるによると云ふ

鐵道賃金引上と京城會議所

今回改正せられたる鐵道旅客賃金引上に付き京城日本人商業會議所山口書記は直に其翌廿五日同運輸部長を訪問し一面各會議所に夫々通知すると共に其意見を求むることゝ爲したり亦た廿九日午後七時會議所樓上に於て臨時總會を開會し鐵道旅客賃金引上に關する件其他直輸送の件會議所樓上等の件に付協議する筈なりと

滿洲の赤十字事業

南滿洲に於ける日本赤十字社事業の成績は頗る良好にして現存の社員數は實に一萬三千餘人に達し資金の如きも各委員部を通じて五萬餘圓を積立て特に旅順に赤十字病院を開設し又奉天に於ても居留民より四千圓東三省總督より五千圓の寄附金ある上清國よりは特に敷地を寄附して支部事業の經營に資せんとするが如き尙ほ此の外滿鐵附屬地の重要所に相當の病院を建設せんと計畫しつゝあるが爲之れが資金の支出に就て熟議中なるが現に滿鐵會社に於ては各附屬地に同社の病院を建設する計畫もあるより同性質同目的の事業なれば寧ろ之を合同組織となし資金を滿鐵會社に支出せしめ經營其の他の施設は赤十字社に於て之を擔任する事とせば第一經費の點に於て大に輕減せらるゝのみならず却つて好成績を擧げ得る事もあるべしとの議起り居る由なれば早晚兩者間の協議に上るならんと云ふ

●旅順船渠の經營 目下アムール艦の横はれる旅順船渠は淸國時代の經營に係れるものなるが今度同船渠の水道を閉塞せんが爲め去る二十日迄に堤防を築き上げ船渠內を排水してアムール引揚に從事し船渠破損の程度さして甚しからずば直ちに之が修繕に取かゝる筈なるも若し修繕に大手數を要すべき見込ならば黃金山下の露國半成の船渠を經營するに至るべしと

諸官廳の入札購買に就て

客臘以來官制改革の結果諸官廳の入札購買は續々として開始せられ玆に諸商人の買込競爭大に起りし由なるが就中宮內府に於ける淸國商人の跋扈は頗る强大なるものなりと开は外ならず彼の納入する物品は何れも多額廉價に上海より輸入せられ且つ彼等の生活程度は頗る低く從て之が使用人の給料も低廉にして加ふるに資本の豐富を以て之に應ずる事なれば之と全く正反對の境遇に在る本邦商人は慘憺たる敗北の迹を印しつゝある由なるがコハ本邦商業の發展上誠に容易ならぬ出來事なれば此際當局者たる者は保護的手段に訴へ本國本位の實行こそ大に望ましき次第なり

東淸鐵道の競爭

東淸鐵道會社が大豆豆粕等の貨物に對し運賃の減額を爲し南滿鐵道線と大競爭を開始したる結果長春附近の貨物は續々として東淸線に奪去れんとするの形勢あることは己に世人の知悉する所なるが東淸鐵道會社は今亦旅客の吸收に就ても大に競爭を試みんとする者の如し東淸線西寬城子驛にては特に本敦賀までの連絡切符を發賣し長春より敦賀までの運賃を下等僅に二十留となしたりと云ふ而して東淸線の下等は其設備等南滿線の二等に匹敵し浦鹽敦賀間には大抵隔日位に定期の直航船あるのみならず東淸線には稅關の檢閱有名無實なれば北方に於ては日本人すらも日本との往復は大連を經由せずして浦鹽を經んとする者多く將來奉天以北の旅客は凡て東淸線に吸收されんとするの形勢なりと云ふ

秦皇島の將來

將來滿鐵の競爭者たるべき關外線の中心點は秦皇島にあるを以て近頃同地方に入込む本邦商人頗る多き由にて此頃三井物產會社は先じて出張所を開設したるも全く將來に屬望したるものにて同島は一方には營口の繁榮を吸收し他方大連に對抗せんとする目的なりと云ふ而して昨今法庫門方面より同島に蝟集し來たれる貨物非常にして却々の繁盛なるより近頃小商人を始め醜業婦の入込むもの頗る多しと云ふ

●痘瘡に關する訓令 內部大臣は警視總監及び各道觀察使に向ひ左の意味の訓令を發せり

痘瘡の流行は之を既往の實際に徵するに概ね十一、十二月の交より翌年四五月に亘るを常とす客臘來少數の患者各地に發生し今や季候の關係上漸く傳播蔓延するの兆あり此時に當り嚴重防遏の策を講せざれば意外の慘毒を逞ふする事なきを保し難し依て此際直に種痘を勵行し豫防上遺策なきを期す可し

●衞生局長の依命通牒 內部衞生局長は種痘勵行方に付各警察署長同分署長へ依命通牒を發せり

各地討伐の狀況

▲積城守備隊志賀中尉の率ゐる半小隊は廿四日午後四時開基(積城南方約二里)に於て金某の率ふる暴徒約五十と衝突之を潰走せしむ賊の死体廿一、負傷者不詳鹵獲品銃十八其他雜品若干我に損害なし賊の主力は東豆門方面に一部は積城方面に退却せるものゝ如く小隊は目下東豆門に追擊中なり

▲廿四日開基(積城南方二里)附近に於て襲擊せし賊は廿三日夜九化場方面より永谷警察隊に跟隨し來り開基附近に於て之れを要擊せんとせしものゝ如し同警察隊は廿四日午後七時積城出發楊州に向へり

▲十七日午前三時洪川郡南面龍水に於て金春洙の主事の率ふる約四十名の賊黨を急襲し之を殲滅せり賊の死者三十一、鹵獲品單發銃一、火繩銃十二彈藥數百、背囊二三十短刀二、其他雜品若干我損害卒の重傷一

▲榮川守備隊の下士以下四名は廿日奉化東方約五里にて賊約五十に遭ひ其十一を殪せり我に損害なし鹵獲品銃一、其他六件あり

●洪州方面の賊 一月十五日午前五時暴徒約五十名唐津郡邑に襲來し同地宿泊中の洪州郵便局遞送人(韓人)及び宿主を捕へ毆打を加へ巡查の居宅に案內せしめ巡查(韓人)三名を捕へ物品を强奪し又郡主書記を捕へ來り沔川郡松山面錦岸浦に至りて民船一隻を奪ひ之に乘り込みて他に去れり捕へられたる者は此時解放せらる此の賊徒は常に南陽灣沿岸に出沒する海賊なるが如しと又一は廿二日午前三時海美郡夫山面普賢堂に暴徒集合すとの情報あり海美郡駐在巡查四名直ちに現場に急行せしに約百名の暴徒は後方の山上に散開し盛んに射擊す巡查の一行も直ちに應戰せしも彼等は我の少數なるを知り容易に退却せず交戰六時間の後賊團に向ふて突進し遂に潰走せしむ追擊三里二回の抵抗を受けしも悉く之を突破し全く唐津郡方面に潰走せしむ此の戰鬪に於て曩に唐津駐在所にて奪はれたる物品を奪還せり賊の死傷者判明せず我一行は無事なり

●益山の賊 一月十九日午後八時暴徒約五十名益山郡邑に來襲し駐在所を射擊す偶々騎兵十二名附近暴徒討伐の爲め郡邑中なりしを以て直ちに應戰し礪山街道に擊退す直ちに追擊を加へしも暗夜咫尺を辨せず遂に其蹤跡を失せり敵の死傷數不明追擊中騎兵の流彈に中りて韓人一名即死し郡書記一名負傷す

●歸順者 最近に於ける歸順者黃海道海州警察管內に五人江原道春川警察管內に十二人同金城分署管內二人忠淸北道淸州警察管內二人あり何れも六ケ月の監視に付せらる

●火賊逮捕 去る十七日水原郡文市面細橋村に至り洞民に對し金百圓を出給すべしと迫りつゝある官洞民の密告に依り巡查二名出張逮捕の上廿日水原警察署に引致したるに付取調たるに本人は光武十一年十一月廿日文市面細橋洞洪監查役弟方へ侵入短刀を以て脅迫の上金十圓を强奪し爾來水原龍仁地方を巧みに出沒同樣の手段にて兇行を働き居たるものにして加害者個所十二掠奪金額七十一圓に達せりと云ふ

●宮內官退官恩賜金支給施行規則 宮內府官吏退官恩賜金支給規程は前號所載の如くなるが同規程施行規則を揭ぐれば左の如し

第一條 宮內官退官恩賜金支給規程に依り退官恩賜金を受けんとする者は別記書式(書式略)に準し調製したる履歷書及在勤官廳所管長官(在勤官廳にして廢止したる時は該事務を繼承したる官廳所管長官)の勤續證明書を添付して宮內大臣に請求すべし

第二條 退官恩賜金を受る者死亡したるに因り其遺族が退官恩賜金を請求する場合には前條書類外に死者の親族關係を詳記したる所轄府尹又は郡守の證明書を添付す可し

本令は頒布の日より施行す(以下略す)

●學部及農商工部分課規程 學部及び農商工部分課規程は何れも昨日の官報にて發布せり

●京城內の强制種痘 既報京城內の强制種痘は陰曆正月早々警視廳に於て施行す

釜山土地富力

別項商業會議所富力調査に係る同港土地の富力計算は左の如し

一金二百二十八萬七千五百圓

內

金五百五十九萬圓 專管居留地內宅地價格

但し專管居留地面積十一萬五千餘坪の內龍頭山二萬千八百八十八坪龍尾山六百八十坪を除き殘九萬二千五百坪を左の如く評價積算す

長手通及本町方面	全面積の十分の二	一坪に付金百圓
西町及南濱方面	全面積の十分の八	一坪に付五十圓

金三十四萬圓 大廳町方面宅地價格

但し同方面々積六萬八千餘坪の內其二分の一を宅地と見積り左の如く評價計算

大廳町	全面積十分の二	三十圓
同	同 十分の八	五圓

金三百五十七萬六千圓 西部新市街地宅地價格

但新市街地(佐須土原資水村方面を含む)方面々積二十九萬八千餘坪を左の如く評價計算せり

佐須土原方面	十分の一	三十五圓
其他	十分の二	二十圓
同	十分の二	十圓
同	十分の五	五圓

金百四十七萬千五百圓 埋築地宅地價格

但同面積三萬二千坪 坪四十五圓

金八十萬圓

但居留民團區域內釜山鎭方面新市街豫定地大凡五十萬坪の內日本人所有に係る分二十萬坪と見積り平均四圓と計算す

金五十五萬圓

同上絕影島大凡十萬坪を左の如く評價計算す

全体の十分の一		一坪に付	十六圓
同	十分の四	同	六圓
同	十分の五	同	三圓

釜山港の富力調査

釜山商業會議所にては目下同港の富力調査を爲しつゝあるが其項目は左の如し▲(一)土地の富力▲(二)家屋及倉庫其他建造物の富力▲(三)家財及美術品の富力▲(四)家畜其他動物▲(五)水產▲(六)電氣會社及水道▲(七)諸會社銀行事業の富力▲(八)工場の富力▲(九)船舶▲(十)金銀貨幣及金銀塊▲(十一)諸貨物商品▲(十二)鐵道電信電話▲(十三)諸營造物▲(十四)山林▲(附十五)釜山居留民團の戶口▲(十六)居留民の課稅負擔額▲(十七)居留民團の債務

●檢察官任命 檢事草場林五郎氏は二十二日附を以て統監府法務院檢察官に任命し高等官五等に敍せられたり

●技師任命 帝國鐵道廳技師[illegible]は二十七日附を以て統監府鐵道管理局技師に任命せられ高等官二等に敍せられたり

●宮木稅關長 事務打合せの爲め本日上京し總稅務司を訪ふ筈

●熊谷民長歸任 熊谷民長は前號に記したる如く昨日午後九時南大門着の京釜線にて歸任したる筈

●廿七日參內者 昌德宮計三十四人(內婦人七人)重なるは主殿院卿李載克侍從院卿閔丙奭法部大臣趙重應承寧府侍從武官張然昌禮式官高羲敬承寧府侍從洪運杓同李範漢典膳司長金珪乾侍從院典醫朴準承小宮宮內次官夫人趙法相夫人光岡德壽宮計七十人(內婦人廿五人)重なるは承寧府總管趙民熙同副總管朴齊斌同侍從長金春熙侍從院侍從李喜見同李裔永警務官李邦協等なり

●韓官任命

兼任完興君宮贊尉 侍從院侍從 李裔永

兼任完興平贊尉 掌禮院禮式官 金衡勳

兼任完順君宮贊尉 侍從院侍從 趙寅國

●海流調査壜の漂着 昨年十一月三十日鬱陵島に於て光濟號より投入したる空壜の內翌月十四、十五兩日に越前國阪井郡、同敦賀郡の二村に漂着したる由は其當本紙に記載せしが爾來續々和田技師まで報告し來れるものあり今其發著を記すれば左の如し

投入月日	同地名	漂著月日	同上地名	採收者
十一月卅日	鬱陵島	十二月廿三日	越前丹生郡四浦	奧村淺吉
十一月廿八日	緋悲灣	一月十三日	能登羽咋郡	穗高三次郎
十二月一日	水源端	一月五日	越前三方郡西田濱	岸市藏
同上	同上	一月廿一日	能登羽咋郡四浦	坂本乙松

●度支部移轉 度支部が建春門前に新築したる議政府に移轉すべしとのことは既報せしが愈よ來る二月一日より移轉することゝなれりと

●韓國各學校の休業 韓國に於ては本年より陽曆を用ふることゝなりしも一般人民に於ては多くは陰曆を慣用し新年の儀式を陰曆に行ふに依り各學校に於ては昨日より休業することゝせり

●糧食廻送 本日仁川港に入港すべき蕨與丸は宇品本部より積載せる糧食三千百四十九個を仁川陸軍運輸部に揚陸する筈也と

●千賀丸の輸送 昨日仁川を出帆したる千賀丸にて仁川陸軍運輸部より木浦守備隊行糧食百四十四個を輸送したりと

八幡社頭の大活諢

韓太子英親王鎌倉行

韓國太子英親王には去る廿三日午後二時伊藤太師及李宋兩相其他供奉員十餘名を隨へられ鎌倉に御成りあり同三時同地に御着輦に召して八幡宮に參詣せらる伊藤太師先づ殿前に進み幣帛料を納め參拜すれば殿下も亦之に倣ふて御參拜あらせらる多くの神鳩並居る人々の頭上脚下に舞ひ太子の御機嫌甚だ麗はし此の時太師は太子の御手を取り參らせ階を下だり樓門の下に立つて李宋兩相をも身近く招き座ろに八幡宮の由來を說きて曰ふ此の八幡宮は源賴朝が建てたるものにて以前は此所より遠からぬ彼所に在りしなり右に見ゆるは由井ヶ濱松の林は繪の如き渚に連らなり昔し佐殿が千羽の鶴を放ちし風流今ま眼のあたり見る心地ぞする此の宮は八幡を祭る所なり今を距る八百年前東北地方王化に浴せず兵亂頻りに起る其の時八幡太郎義家といふ豪傑あり出征して前後三年の間苦戰惡鬪を續け漸く之を平定したり此の豪傑こそ今ま此所に神として祀られ居る人也と伊藤太師は語つて玆に至り沈默久ふして社前を去らんとす見やれば大師は當年を追想して感慨に堪ねずやありけん兩眼珠の如き涙浚る與に之れ悲壯の光景一生只だ王事の爲めに盡さんとする今ま活ける英雄は地下千秋の古英雄を吊ひ隣韓太子に奉侍して暗然其の史蹟を說く之れより後ち腕車にて長谷の大佛を觀たる太子御一行は腕車にて腰越へ赴かれ同地より汽車にて同六時二十分大磯に御歸館相成りたりと

我輩は仁川穀物協會である

（國民新聞所載）

日淸戰爭開始以來一二年の間と云ふものは人氣は日に增し昂ぶり戰爭のお蔭で裸一貫から甘く濡手に粟を掴んだ連中の經路を見ては今更大蒜臭い韓商を對手にして終日ボテやサシと首つ引きをする氣にもなれず、お剩けに當時日本商人の商賣敵であつた支那人が昨日までヤレ大國人で御座るの中華の大人で御座るのと威張り散らしてゐたのに敵もあらうに撰りも撰つて頭から倭さばかりに輕蔑してゐた日本人から自國の軍隊が目も當てられぬ敗亡を續けてゐては未だ舌の根も乾かない大言壯語の手前もあれば何うして安閑と業務に從ひてゐられやう仁川に店舖を開いてゐた支那人は大抵店を疊んで本國に引揚げて了つたから跡は日本人の獨り舞臺、金巾で御座れ洋反物で御座れ軍人役夫向きの雜貨で御座れ競爭者と云ふものがないのだから隨分モロい金儲けが出來たのに眩惑ふて我も我もと輸入商を始めて誰も輸出の商賣で而かも有利な商賣を顧みるものがなかつた。が、彼等輸入商が顧客と恃む軍隊は逃ぐる淸兵を追ふて鴨綠江を渡り遠く敵地に入りて了つた、有つ丈けの智慧を絞り出してやつと思ひ付いた有名な蒼龍號一件はイザ陸揚げと云ふキワドイ所で背負ひ投げを喰つて仁川市民が常に胸中に畫いて居た空中の樓閣は漸く崩れさうになつてゐる矢先き弗々復歸つて來る支那人が自國人の少い中に自分の勢力範圍を擴げて儲からうと車輪になつて顧客先きをセツて廻るやうになつたから日本商人も初めて夢の覺めた樣に久濶ぶりにボテとサシ握つて見ると、矢張り個人間の競爭が激しくて思はしい儲けも出來ない然う斯うする內に誰れ唱ふるとはなしに組合の必要を說くことが段々喧しうなつた、それでも中には當時木浦や鎭南浦が新に開かれたから當地で餘り酷いことをすると其方に廻米を吸込まれる虞れがあるから何とか好い手段を執らねばならぬならぬとの杞憂を懷くものもあつて結果が戰爭前にあつた組合と同じ目的で五錢宛積むことにして第一銀行員が稅關に出張して一々積立金を徵收することになつたが暫くすると組合員中にも隨分沒常識な奴があつて積金を胡魔化す奴が段々殖ねて來るし一方每日稅關に出張し積金を預る第一銀行側でも何も人の非行と暴露いてまでも其積金を徵收せねばならぬと云ふ義務も責任もないのであるから勢ひこれを知つて知らぬ顏をすると云ふ風に何うしても甘く團結實行して行けないこれには當事者もほとほと困じ果て、何とか好い策を見附けて今一度盛り返さうと常に頭を碎いてゐたのである

●天然痘患者一人もなし　一時猖獗を極めたる天然痘は豫防法の行屆きしに依るか將た痘神其鋭鋒を潛めたるか再昨日頃より其患者漸次減少の模樣なりしが一昨日より昨日午前までに至る間には遂に一名の新患者なかりしは實に喜ぶべき次第なるも之を以て注意を怠らば前日の慘狀を見るに至るなしとせず此際大に注意すべきなり

●畸形の犢　全羅南道晉州郡城內面居住の金甲淳なる者の內に飼養せる牝牛が去る二十二日產氣付きしも餘程の難產にて足のみ出して容易に產落出來ず非常に苦むにぞ家人も之を見兼ね若者三人をして其足を挽かしめ一人は母牛を扶け漸く引出したるも犢は遂に死したりと而して產れ出たる犢は世にも不思議なる畸形の牛にて一身兩頭四耳兩口を有し兩鼻四眼とも備り居れども尾及び足は普通と異狀なかりしも死したるは實に惜きことなりしと同地より通信ありたり

●浮かれ男　永樂町二丁目に住へる佐賀縣平民石原無垢一といへるは妻子のある身なるに開城の勝利亭の仲居おべそとて名さへも有難からぬ女に現を拔かし通へるより一家に風波の絶間なく爰に一計を案じ其の女を鳥致院に移し置き女房には開城へは今後通はぬとて安心せしめしも又も鳥致院に通へること暴露してより女房は承知せず遂に二千百圓を分財して質屋を開業したるが無垢一はこれに懲りず近頃はまた新町第一樓の第二稱藝妓なにといへるに首たけ惚れ込み夜每日每に繼いでせつせと通へるより近所では鈴木主水と綽名して笑ひ草の種となり居るとの投書ありたり

●藝妓の拾ひ物　新町淸月樓の藝妓佐賀シナは二十七日軍司令部通りの萬歲橋涯りにて佐田ツル宛の郵便通帖を拾得したる旨警察署へ屆出たり

●福の神の悶着　去る二十七日本町五丁目の鳥越民助方へ二人の男來り年頭に福の神を持ち來り置きたるにつき御祝儀を呉れよといへるより同家にて金五錢を與へたるに彼等は五錢位の目腐り錢を戀々貰ひには來ぬ最少しはづんで呉れよといひ同家にては五錢も志なり志を無視すれば一文もやらずといひ呉れぬなら呉れぬでよし覺えて居れと言ひ捨てゝ立ち去りたるより同家にては恐怖を懷き直ちに其由本町巡査派出所へ屆出たるにより巡査が出張して見ると彼の二人の男再び來りて家人と組打を爲しつゝあるより一同を警察署に連れ歸り說諭の上放免せり

●僞稱刑事巡査　去る二十六日午前一時頃南大門通三丁目の待合營業木島辰次郎方へ刑事巡査と稱し一人の男來りて各室を取調べなどする擧動の怪しきより警察署へ密告せしかば北山巡査出張して見ると其の男は曾つて委託金費消罪を以て理事廳監獄署に服役せし山本善一なるより直ちに拘引したり

●反物を騙取る　去る二十二日午後八時頃本町四丁目の吳服店山下新太郎方へ大和町の統監府官舍第五號の廣田直三郎の名刺を持ち來り袴地入用につき見せ呉れよとて二反(代二十二圓)を持ち歸り二十四日に至るも何の音沙汰なきより丁稚をして尋ねさせし所廣田方にては覺えなしといへるより更らに廣田の留主中其の留主居をなせし大和町一丁目の細井某に就て聞くと多分自分の知人某が一寸の融通の爲めなせしことにつき明日まで待ち呉れよ然らば現品を返すべしといふより山下方にては一應其の言に從ひ猶豫せしに二十七日に至るも埒明かずとて其の筋に告訴したり

●たかしのかたり　長崎縣生れにて目下明治町一丁目の林田武平方に滯在する大島小四郎(二十)といふはよい年を爲しながら菓子が喰ひたいが病なれども之れを買ふべき料金を得ざるより壽町三丁目の飲食店松金方の使と僞り本町五丁目の菓子商永田亭を始め各菓子店にて數回に菓子一斤二斤宛を詐取したること發覺し一應拘引せられしが昨日訓戒の上放免せられたりと

●鉄釘泥棒　岡山縣平民雪上熊吉(二十)といへるは去る六日開城府門外西洋舍石山下畑に於て鉄釘一千個を發掘し內二百個を京城に持ち來り第一銀行の分析所へ託して其の分析を爲さしめんとする所を其筋の耳に入り取調を受けつゝありと

●賊洋服屋に入る　去る二十五日夜南大門通洋服屋丁子屋へ三名の賊忍び入り內二名は逃走し一名は直ちに取押へたるが此の者は仁川の金鑛工夫金學西(三十)といふ者なりしと

●板間稼ぎ　近頃警察署の嚴重なる取締の爲め久しく其の聲を聞かざりしが去る二十六日の夜旭町の日の出湯にて前田某は衣類一式を盜難に罹りたりと

●泥足を洗ふ　城を傾け國を傾けるほどの腕前ありしや否やは知らざれども慥かに羽の無い鳥は落つる位の評判を得たりし新町京城樓の藤子事柏子事飯塚フジは去る三十八年の今日限りと云ふ大晦日に三百圓で召抱へられ店出せしものなるが這度去る鼻下長の後援にて殘金百圓を返濟し昨日限りにて奇麗薩張りと泥足を洗ふこととなりしとて目出度し〱

●歌舞伎座の津田政登場　目下興行中なる歌舞伎座の北村一座は曾て京仁間を荒したる後馬山方面に高飛し同地を荒し遂に同地警察署の手に捕はれ當地に護送せられ目下取調べ中なる稀有の大賊津田政二郎のことは讀者の知らるゝ所なるが同人の經歷に就ては小說以上の興味あるを以て之を演劇に仕組み本日歌舞伎座に於て場に登すといへば定めし大入を來すべし其役割及び場割は左の如し

外題兇賊津田政　釜山署小林刑事(井上)瀧澤刑事、津田政妹たとき(原田)飲食店主婦れ柳、れ倉の夫傳四郎(西本)給仕島田、韓人(大島)外國人ピー、ラツセル(桂)情婦村田ナヲ、津田政次郎母親(橫山)松井警部、馬山署刑事(吉岡)馬山署警部、韓吏呑淡(佐藤)村總代山石岩三、牧野巡查(谷)馬山署巡查(中澤)仁川署刑事(寺田)友人秋本德次郎(保岡)酌婦れ濟、韓人珍煙好(小泉)舟夫藤田柳平、津田政治郎父親(靑木)韓吏朴溶甘、刑事藤村(北山)津田政次郎(三木)津田情婦たくら(三井)外國婦人マタンー(三國)看守西村、韓人チゲクン(淸水)南部巡查部長(森)南部警察署長桐原警視、阪本刑事(北村)等にして場割は

一、咸興守備隊柵外二、京城秋本德次郎宅三、日本門司神社境內四、韓國駐韓軍の營倉五、龍山官舍六、仁川京城通りうどんや七、仁川洋館八、元のうどんや九、仁川海岸船場十、仁川警察署留置所十一、釜山草梁支那商店十二、釜山草梁飲食店十三、韓國法務院の內十四、津田政次郎の實家十五、東小門內傳四郎宅十六、同溫突內裡十七、永登浦附近の荒野十八、馬山浦旅館十九、京城南部警察署會議室廿、同訊問所廿一、應接室廿二、門前

來る四月一日より當局全線大貨物及旅客賃金左の通り實施致候

●大貨物賃金

種類品名	運賃計算上單位	運賃率 二十哩迄	廿一哩以上五十哩迄	五十一哩以上百哩迄	百一哩以上二百哩迄	二百一哩以上	最低運賃	備考
斤大貨物	一百斤一哩	九厘	四厘	四厘	二厘	一厘	九錢	
噸大貨物	一噸一哩	五錢	四錢	三錢	二錢	一錢	五十錢	
動物 牛、馬	一頭一哩	十錢	八錢	六錢	四錢	二錢	四圓	四頭以下は四頭分を取る
動物 羊、豚、犢、駒	一　哩	五錢	四錢	三錢	二錢	一錢	四圓	八頭以下は八頭分を取る

但し計算は累算法に依る

●旅客賃金

五十哩迄　三等一人一哩に付　三錢
五十一哩以上百哩迄　同　二錢五厘
百一哩以上二百哩迄　同　二錢
二百一哩以上三百哩迄　同　一錢五厘
三百哩以上　同　一錢
但し計算は累算法に依る
二等賃金　三等賃金の七割五分增
一等賃金　同　十五割增

●哩程の通算

從來京釜、京義及馬山線共相互間直通輸送の場合に於ける運賃は小手荷物の外總て各線各別の計算としたるも四月一日よりは發驛より着驛まで哩程を通算し所定の賃率を乘ず

●日本內地との連帶運輸

四月一日より京義及馬山線各驛と帝國鐵道廳東海道、北陸、關西、山陽及九州線の主要驛相互間連帶運輸の便を開き直通輸送を爲すべき豫定にて目下其筋へ交涉中に屬し右開始の曉には以上哩程通算法に依る賃金の低減と共に北韓方面の交通に一大新生面を開くに至るべし

明治四十一年一月
統監府鐵道管理局

京城明治町一丁目（漢城病院筋向入）
高等下宿　**日乃出館**
弊館は設備完全にして最も閑靜なり
弊館は丁寧懇切を以て特色とす

一各種石炭大販賣

大の浦塊炭
豆田塊炭
大辻塊炭
ストーブ用として右三種取寄せ貯炭罷在り御希望に從ひ多少に拘はらず迅速御屆け可申上候
三池粉炭
鍛冶用として貯炭罷在り多少に係はらず御用に應し可申候
當社一手販賣炭左之通り
三池、田川、伊田、山野、金田、豆田、津波黑、藤棚本洞、大の浦五尺、大の浦三尺、笹原、滿の浦芳雄、大辻、白岩、柚木原、岸嶽等

三井物產合名會社
京城出張所（電話二十六番）
仁川出張所（電話六十三番）

開店御披露

和洋雜貨
並に備前物產
足袋・キシヤク
卸小賣
京城本町六丁目
中塚支店

公告

明治四十年下半期第六十一期貸借對照表

資產

科目	金額
貸附金	三、三二一、〇八[illegible]・八一四
當座預金貸越	一、〇三九、一一一・八九〇
割引手形	二、〇四三、〇三六・二八〇
荷爲替手形	五七〇、八一八・八七〇
預ケ金	五八、六六四・六七〇
有價證券	一、〇五九、九〇五・九九〇
地金銀	一四、九三七・三一〇
他店貸（六百三十二ケ所）	五〇七、九一四・九四〇
未拂込資本金	一、三一二、五〇〇・〇〇〇
營業用地所建物	三六〇、九三二・〇八七
所有地所	二五、七二六・五七〇
抵當質物流込物件	九二六・一九〇
雜勘定	五三三・八六〇
金銀有高	八六〇、一八一・五〇六
內譯　正貨	六一、六四四・四九一
兌換券及銀行券	七四二、〇〇四・二〇〇
切手手形	五六、五三二・八一五
合計	一二、一七六、二七一・九七七

負債

科目	金額
官公金預金	三三四、六六六・七二七
公金仕拂送金	一一一・一一〇
爲替手形	
定期預金	一、三二九、二二五・五六五
當座預金	二、七六七、三三四・五一九
小口當座預金	九六八、七九一・七一〇
別段預金	三六七、二七六・五九八
仕拂送金爲替手形	八六、三九八・二五〇
借用金	七〇二、五三五・八七〇
他より借（七百七十二ケ所）	五八一、〇八八・二七〇
本支店間未達勘定	一四一、四八九・五七〇
資本金	三、〇〇〇、〇〇〇・〇〇〇
法定積立金	三八〇、〇〇〇・〇〇〇
新築費積立金	九〇、〇〇〇・〇〇〇
前期繰越金	二九一、〇三二・四三三
當期純益金	一三六、三二一・三五七
合計	一二、一七六、二七一・九七五

明治四十年十二月三十一日
長崎縣長崎市築町百七番戶第壹號
株式會社　十八銀行
頭取　松田庄三郎
副頭取　永見寬二
取締役　高見和平
同兼支配人　松田英三
支配人　野口幸太郎
京城支店長　清水文之輔
監査役　肥塚與八郎
同　松田精一
前記の各項調査を遂げ其正確なるを保證候也

誠實と熱心を以て訴訟登記其他諸般の代書依賴に應ず
明治法律學校出身
增本好三郎事務所
京城本町一丁目一番地

大韓天一銀行

第三期（隆熙元年下半期）營業報告

貸借對照表

負債之部

科目	金額
諸預り金	三一〇、一八九・三六
他店より借	六、四八二・一八
資本金	一五〇、〇〇〇・〇〇
政府貸下金	二四〇、〇〇〇・〇〇
中央金庫借入金	二、五〇〇・〇〇
諸積立金	四八、九五八・六二
配當未濟金	二八七・〇七
當期純益金	一九、四六二・〇九
前期繰越金	五、七一九・五一
合計	七九三、五九八・八三

資產之部

科目	金額
諸貸出金	三〇六、六四三・三九
割引手形	二五三、七三四・二六
有價證券	七、七〇五・四〇
他店へ貸	六、三六一・三二
預ケ金	四六、七三九・〇六
未拂込株金	九八、五〇〇・〇〇
營業用地所建物什器	三七、六一一・二一
假拂金	七、二三五・六二
金銀有高	二九、〇六八・五七
合計	七九三、五九八・八三

損益

一金三萬二千三百六十圓七十二錢　本期總益金
一金五千七百十九圓五十一錢　前期繰越金
合計金三万八千〇八十圓二十三錢
內
一金一萬二千八百九十八圓二十三錢　本期總損金
差引金二萬五千百八十一圓六十錢　本期純益金
此配當計算左の如し
金一千圓　重役賞與金
金五千圓　積立金
金一千圓　配當積立金
金八千圓　別段積立金
金二千百四十二圓四十錢　配當金（年一割）
金八千三百三十九圓二十錢　後期推移金
右之通り相違無之候也

隆熙二年一月
株式會社　大韓天一銀行
銀行長　金基永
取締役　尹晶錫
取締役　趙鎭泰
取締役　白完爀
支配人　飯泉幹太
監査役　李吉善
前記各項を調査し其正確なるを保證す

原金旅館

本店　仁川理事廳通（電話三三一番）
支店　京城南山町（電話一〇七番）

營業科目
活版活字鑄造
石版銅版
コロタイプ
彫刻諸印刷
諸帳簿
製本裝釘

本社　日韓印刷株式會社　京城明治町三丁目（電話三二三番）
東京出張所　東京市京橋區南鍋町一丁目十番地（電話新橋三九六二番）

薪炭石炭　おろし　小賣
京城長谷川町一丁目
神野商店

御手がる廉價を旨とし如何樣にも調理仕候
會席御料理　**湖月**
（京城南山町（明治町筋））

●新らしく生れたる韓國唯一の大雜誌●

月刊 朝鮮

●初號三月一日發行定價金廿錢郵稅一錢●

執筆者は前大東新聞社長菊池長風氏及び京城居留民團囑托釋尾旭邦の二氏なり菊池長風氏は漢城の活歷史にして又漢城獨步の文豪なり政論家なり評論家なることは既に定評あり、釋尾旭邦氏は哲學者にして忠實なる韓半島の研究者なり、又熱心なる帝國主義と民權論者なり社會改造論者なり、此の二氏の外漢城の顯官名士論客文士數十名を特別寄書家として韓半島に於ける有ゆる方面を最も嶄新に奇拔に正確に紹介し論議し諷詠する唯一の大雜誌なり然して之が發行者たる我日韓書房は多年顧客の厚誼に酬ひんが爲め商賣氣を離れて聊か新保護國の交運に貢獻せんが爲めなり、此の朝鮮が所謂三號雜誌と全然其の趣きを異にするは敢て說明を要せざる處なるべし、猶は各方面の通信寄書を歡迎す

發兌元　京城本町二丁目電一四五　振替口座九〇五九番　日韓書房

▲訂正改版發賣▼

最新詳密 京城全圖

●定價金二十錢郵稅金二錢●

昨春發賣大好評を博せし本地圖は今回改訂再版詳細洩す處なく各官衙學校は勿論各商店名まで記入しあれば始めて來城せし人にても此の地圖に依れば一目瞭然少しも惑ふ處なし

訂正再版　附郵便線路圖入

最新詳密 韓國全圖

●價金二十錢郵稅金二錢●

京城本町二丁目　振替口座九〇五九　日韓書房

會席御料理　並に仕出し
御望に應ず
京城大平町一丁目
田舍家
電話七五六番

諸官衙御用印刻師
京城明治町二丁目
齊藤亭太郎

おたふく

會席御料理　並に仕出し　其他御好次第
米倉町一丁目
おた福

產婆案內（名簿いろは順）

伊集院兼子　京城明治町一丁目　內務省免許（電話架設中）

伊藤智滿子　京城旭町三丁目　內務省免許

岩永滋野　京城明治町一丁目　內務省免許　妊婦產婦マッサージを要す

濱崎辰子　京城壽町三丁目二十六番地　內務省免許

堀越直子　京城本町五丁目（釘本商店橫入）　內務省免許

若原順子　京城本町貳丁目　三井物產會社構內三好方

田淵左姫　明治二十五年開業　內務省免許　京城本町六丁目

土山峰子　京城本町四丁目三十番地　內務省免許　京都帝國大學病院產科婦人科勤務を辭し肩書の處へ開業致し候

山鳥ウタ　京城旭町通一丁目五十五番戶（民役所の西側）　內務省免許

築山久野　京城壽町二丁目（坂井病院內）（電話二二六番）　內務省免許

松尾のぶ子　京城南大門外雜貨商池田商店當入　內務省免許

淺野くわ子　京城日出町小學校前文具商酒井秀榮堂內　內務省免許

官許　胞衣取扱所　三池鶴代　京城明治町三丁目一番地　內務省免許

杉原花子　明治二十四年開業　京城南山町三丁目（日本人俱樂部上）